

先日発行した北方かわらばん 臨時号でもお知らせしましたが、道総研では、平成26年11月27日(木)に札幌で「自立可能な地域社会の実現に向けて」をテーマにフォーラムを開催します。

第1部では森と住まいの循環による地域産業の活性化について、第2部では北海道の優れた食材を活かした食産業の活性化について、研究成果をもとに発表します。

北総研も、第1部に発表者として参加しますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成26年11月27日(木) 10:00~17:00

場 所：東京ドームホテル札幌(札幌市中央区大通西8丁目)

詳細は、道総研ホームページのセミナー情報をご覧ください。

<http://www.hro.or.jp/event/lts/>

(企画課 酒井)

=====

ひとことエッセイ

前号の編集後記でさらっと告知しておりましたが、本メールマガジンのマイナーチェンジ第1弾として、これまで不定期でお届けしていました「ひとことエッセイ」を今号からシリーズ化してお届けします。このひとことエッセイでは、単に研究成果やイベント等の情報提供だけではなく、北総研職員が様々な場面で見えて感じてきたことを率直に紹介していきたいと考えています。道総研が第2期の広報テーマとする「双方向コミュニケーション」のきっかけとして、北総研の宝である個性豊かな「人」を知っていただき、そしてご感想、コメントをいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

では今号は・・・責任をとって口火を切れ、とのことで、私が携わっている「地域活性化」に関する地域の取り組み(仕事とは直接関係ありません。あしからず)を通して感じていることをご紹介します。

=====

【「地域」について、釧路での取り組みを通して思うところ】

4年前の4月、私は釧路総合振興局へ異動となりました。せっかくの振興局勤務、この間にとことんこの地域を楽しもう！ということ密かに自分のテーマとして乗り込みました。

さて地域を楽しむためには？と考えたとき、まず一緒に楽しんでくれる仲間をつくらうと思立ち、とある交流会に参加。そこで釧路を元気にしたいと熱く(ちょっと暑苦しいくらい)語る「おじさん」に出会います。

「釧路の夕日は世界三大夕日と言われているんだよ。そして、沈んでからの夕焼けが格別なんだ、これをイエローナイフのオーロラ中継のようにライブカメ

ラで世界中に発信して、釧路を世界のあこがれの地にしたいんだよ！」と。何をしてもいいかわからないけれど、この熱い思いを何とかできないもんだろうか・・・と酔った勢いもあり、意気投合します。

この出会いから始まり、徐々に仲間を増やし、1年後に有志11名で市民団体「釧路夕焼け倶楽部」を発足、スマートフォンを使った夕景のライブ中継などの情報発信活動を継続しながら、サポーターを増やし、更に1年後には、交流会で熱く語っていたライブカメラの設置を実現。今年は、これまで3年間の活動が評価され「道新地域げんき大賞」をいただきました。

4年目に入り、マンパワーも限られる中、なかなかうまくいかないことも多々出てきていますが、目指すものを見失わず地道に活動を継続していければ、と思います。私を含めて地元を離れた人間も応援団としてサポートし続けていることも、特筆すべき点でしょうか。

(活動内容などは、<http://uyake946.com> をぜひご覧ください。)

この活動では、「釧路の魅力を日本全国、世界に向けて発信すること」と「市民に釧路の魅力を再発見していただき、郷土への愛着を深めてもらうこと」の2つを大きな目的として掲げています。

実は、私としては2つめが肝とっていて、地域が元気であるためには、地域の魅力を住民自らが理解し、その魅力を楽しみながら生き活きと生活できること、この活動を通してそんなことが重要ではないかと感じています。

FacebookなどのSNSにより、一市民が「この街はこんなに楽しいよ～」と簡単に情報発信できる時代です。これも束になると侮れません。一部の意識の高い方たちだけでなく、幅広く住民を巻き込んでパワーにしていきたいと思います。

人口減少、少子化、高齢化の下で地域を維持していくためにどうしたらよいか喫緊の課題です。どうしても暗い気持ちになりがちなテーマですが、前向きに生き活きと楽しんで取り組んでいきたいものです。(つづく)

(企画課 清水)

=====
研究紹介「木材腐朽の定量的な予測のための数値解析モデルに関する研究」
=====

木材を使った建築物の耐久性確保のため、腐朽防止は重要な要素の一つです。腐朽対策として、薬剤処理のほか木材を乾燥状態に保つことが一般的になされます。しかし現状、様々な温湿度条件下で、どの程度の期間で腐朽が開始し、どの程度腐朽が進行していくかが不明確です。そのため、腐朽防止のためにはどの程度の乾燥状態が求められるかについて、不明確な状態です。

本研究では実験室実験で、温湿度条件と(1)腐朽開始までの期間、(2)腐朽開始後の腐朽速度、(3)木材内部での腐朽拡大に関するパラメータ、の取得を行っています。実験では、腐朽活動が行うことができると考えられている相対湿度70%~100%、温度10℃~40℃の範囲で、主に木材試験体の質量の減少を継続的に測定することで、腐朽の様子を把握しています。また、これらのデータを基に木材腐朽の定量的な予測を行うための数値解析モデルの

構築を行っています。

数値計算によって腐朽の予測が可能となることで、今後の工法開発、既存建築物の改修対策等において、その自由度が拡大していくことが期待されます。

(環境G 遠藤)

=====
最近の研究所の動き
=====

■「平成26年度北海道地域住宅協議会 表彰式・研修会」に出席しました

北海道地域住宅協議会は、北海道庁が主催し全道の自治体の建築担当者が集まります。今年は、10月15日(水)に留萌市にて開催され、北総研からは企画課清水課長と居住科学G馬場研究職員が出席しました。

はじめに行われた北の地域住宅賞の表彰式では、近年建設された公営住宅のうち、北海道知事賞(倶知安町白樺団地)、地域住宅協議会賞(紋別市大山団地)および奨励賞4件が表彰されました。

つづいて行われた研修会では、「高齢期の住まいと介護」をテーマとし、厚労省老健局の山口義敬課長補佐、道内で高齢者福祉サービスを展開する(株)萌福祉サービスの水戸康智代表取締役社長から基調講演がありました。山口氏からは、平成23年度から始まったサービス付き高齢者向け住宅をはじめとする高齢者向けの住まいの実態、それらの運営に対して行政が行う支援などについて解説があり、会場から事業者のイニシャルコストを下げる工夫として地域優良賃貸受託制度を活用してはどうかとのアイデアもありました。水戸氏からは、地域に根差した福祉サービスの運営や職員の離職率を下げる独自の取組みなどの紹介があり、長く住み続けられる住まいを目指していること、福祉拠点は高齢者だけが利用するものではなく地域の拠点にするべきであることなど、熱意をもって運営されていることがうかがえました。

100名を超える自治体職員が集まり、それぞれの課題や経験を情報交換し、最新の国の動向についても情報収集できる貴重な機会であるとともに、お二人のご講演は、近年私ども北総研の研究テーマとなっている住宅ミスマッチの解消や地域(特に集落)における住み続けを考える上で、居住者の視点でどのような地域や住まいが求められるのか、非常に示唆に富むものでした。

(居住科学G 馬場)

■【かみかわ知っ得セミナーを開催しました】

平成26年10月20~24日の5日間、北海道上川総合振興局にて、セミナーと展示を開催しました。主催は上川地域の道総研3場である上川農業試験場

10月の判定依頼は、共同住宅（高齢者向け施設を含む）等5件、事務所・店舗等2件、その他でした。（計画変更も含む）

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均日数は23.5日（前月比約-3日程度）、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均日数は6.1日（前月比約-1日程度）でした。

改正建築基準法が6月に公布されてから5ヶ月が経過していますが、それらの運用や詳細を定める政省令などが未だに公布されておらず、パブコメも行われていない状況です。現在の手続きでは建築主事や指定確認機関が適判機関に判定を依頼することとなっていますが、改正法施行後には建築主や代理人となった設計者が、直接適判の依頼をすることになります。

改正法は遅くともH27年6月には施行されるため、今後の動向には注意が必要です。

当判定センターでは更なる判定時間短縮と丁寧な判定を目標に業務を実施しています。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

（構造判定G 渡邊）

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。